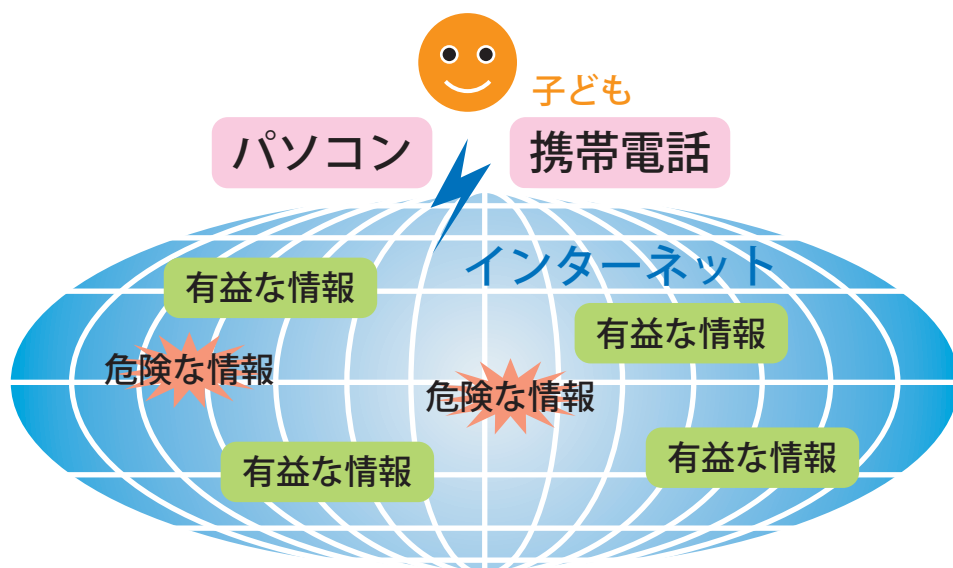


## 16

# 広がるネット犯罪

## メールいじめ，掲示板での誹謗中傷

社会の情報化は子どもたちの生活も大きく変えようとしています。パソコンや携帯電話の普及によって子どもたちはインターネットに簡単にアクセスできるようになりました。インターネットは学習や生活に役立つ情報を閲覧したり調べたりして有益な情報が得られる反面，危険で有害な情報も多く含まれています。子どもたちが安易に有害なサイトにアクセスして犯罪に巻き込まれるケースも増えてきています。インターネットの問題として，まずこのような危険な情報に子どもたちが簡単に触れてしまうということが挙げられます。とりわけ，携帯電話の普及によって子どもたちがどのようなサイトにアクセスしているのか見えにくくなっているのも問題を大きくしている理由の一つです。



有害サイトに  
アクセス

- ・トラブルに発展
- ・犯罪に巻き込まれる

子どもが遭遇する危険は，インターネットにもあることを理解しよう

規準表〈62a〉 情報通信ネットワーク上で子どもがどのような犯罪に巻き込まれるかを知り、犯罪が生まれる情報社会の特性について理解している。

- ねらい
- ①出会い系サイトの実態と危険性について説明できる。
  - ②ネットオークションなどでのトラブルについて具体的な事例を説明できる。
  - ③掲示板やメールの特性や、個人情報の流出などの危険性について説明できる。
  - ④ネットを利用した不正請求についての対処方法を説明できる。
  - ⑤掲示板での誹謗中傷や、メールによるいじめについて具体的な事例を説明できる。

16

## ネットワークの危険性とトラブルへの対応

いわゆる「出会い系サイト」には不特定多数の人間がアクセスします。子どもたちが興味本位でアクセスすると、悪意ある者から言葉巧みに誘われたり連れ出されたりしてしまふことがあります。その際、ネットワークの匿名性を悪用して別人になりすまして子どもたちに近づき信用させる手口もよく使われます。インターネットにはこのような危険な面があることを子どもたちに周知徹底することが大切です。

また一方で、インターネットではメールのように個人宛に送ったり、掲示板のように書き込みを不特定多数の人に公開したりすることもできます。コミュニケーションツールを安易に使うと、「ネットいじめ」や「学校裏サイト」での人権侵害を引き起こすケースも考えられます。このようなことを防ぐためには、学校や家庭、地域の三者がそれぞれに情報モラルの指導を実施するとともに、万一このような事件が発生したときには、場合によっては警察に通報することなどを含めて、三者が連携して取り組む必要があります。問題が発生した場合の緊急対応マニュアルをあらかじめ作成しておくことも大切です。



 **ビデオ教材** (ビデオ→ 広がるネット犯罪)

※ビデオを見てネットワークの特性とネットいじめの関係について整理してみましょう。

-----  
-----  
-----

### Column

情報モラルは、日常生活の中で私達が守っているルール「他人に迷惑をかけない」「他人を傷つけない」など、当たり前のことをそのままネットワーク社会に置き換えたもので、人権教育とも関連しています。そして、こうしたモラルに対する教育は日常生活の中でも行えるものです。また、情報モラルとネットワークの特性（「不特定多数の人がいる」「匿名性が高い」「誰もが情報発信できる」など）の関係について地域や学校で話し合ってみるとよいでしょう。

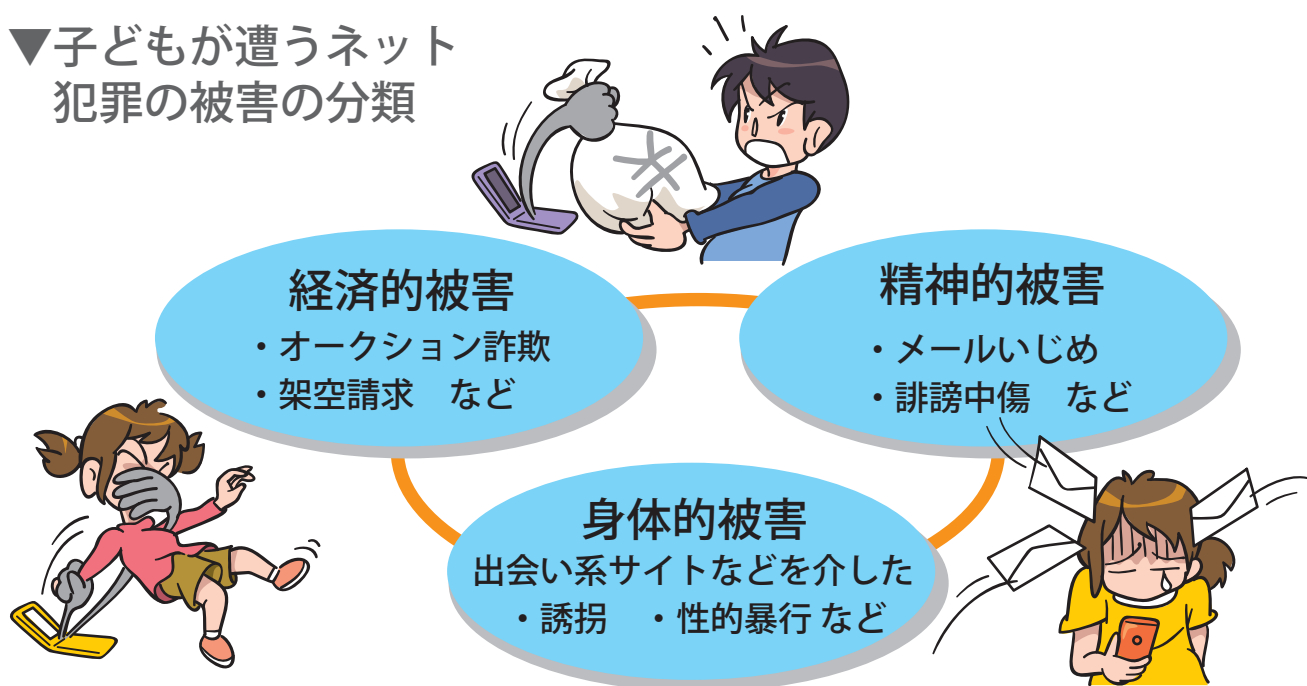
# 子どもが巻き込まれやすいネット犯罪

## 子どもが巻き込まれる実態と防止策

情報社会の進展に伴い、ネットワークを悪用した犯罪も増加の一途をたどっています。このようなネット犯罪に子どもたちが巻き込まれる例も増えてきています。まず、子どもたちがネット犯罪の被害に遭う場合ですが、生命の危険や性的被害など身体に関わる被害や金品を詐取される経済的被害、さらには人権を侵害される精神的被害の3種に分けて考えてみましょう。

身体的被害に遭う例として出会い系サイトへのアクセスが考えられますが、最近では携帯のゲームサイトやSNSなどのいわゆるコミュニティーサイトでのアクセスでも、なりすましによる身体的被害に遭う事件が報道されています。経済的被害としては不正請求やオークション詐欺、IDとパスワードを詐取されるフィッシングの被害などが報告されています。精神的被害（→人権侵害）の事例としては「学校裏サイト」への書き込みやメールによるいじめ、掲示板への個人情報の暴露や中傷、出会い系サイトへののち上げなどが報告されています。

### ▼子どもが遭うネット犯罪の被害の分類



それぞれの被害の特性を理解しよう！

規準表〈62b〉 情報通信ネットワークの特性を理解し、それらを悪用した犯罪の種類や特徴について説明できる。

ねらい □□ ⑧子どもがインターネットで巻き込まれやすい犯罪について説明できる。

## 加害者になる危険性

インターネットを介した犯罪の被害に遭う一方で、子どもたちが意識しないうちに犯罪者になる場合もあります。掲示板へ犯罪を予告する内容を書き込んで逮捕された高校生や、人権侵害の書き込みを裏サイトに繰り返して補導された中学生、違法薬物をネットで購入したり、ウィニーなどのファイル交換ソフトに著作物を公開し著作権法違反に問われたりする事例も枚挙にいとまがありません。



また、犯罪には至らないにしても、自殺やリストカット、薬物乱用、死体写真やポルノなど有害な情報がインターネット上には溢れています。

このようなネット犯罪を防ぐためには、情報モラル教育を学校・家庭・地域でしっかり実施することが大切です。また子どもたちを見守り、困ったことや悩み事があった際に気軽に相談できる仕組みを作り、万一被害にあった場合には連携して迅速に対応する体制を整えるなどの対策が求められます。

—**ビデオ資料**— (関連ビデオ→ 携帯電話とネットいじめ, 情報モラル, プロフとブログ, ネットトラブルに対する今後の取組)

※ビデオを見てネットワークトラブルとモラル, 子どもたちへの指導のポイントについてまとめてみましょう。

## Column

### 子どもへの対策と指導

子どもの有害サイトへのアクセスを防ぐための手段として、有害情報をブロックするフィルタリングという技術があります。こうした技術を利用することはハード面での対策として有効でしょう。ソフトの面での対策としては、大人から一方的にルールを押し付けるのではなく、どのように使っていけばいいかを子どもたちと話し合うことが大切です。

ここ数年で小学生への携帯電話の普及率も上がっています。そのことから、早い段階から情報機器を使用する際のモラルについて指導を行うことが、今後は必要となってくるでしょう。